

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

本文量は減ったが、読みづらい文体だった。論旨は明確だった。

<本文分析>

大問番号	第一問 現代文				
出典 (作者)	「思想史のなかの日本語」(中村春作)				
頻出度合 ・的中等	なし				
分量 前年比較	分量 <span style="border: 1px solid black;">減少</span> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約 3900 字 (2022 年 約 4540 字)				
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・ <span style="border: 1px solid black;">やや難化</span> ・難化)				
一	評論	問一	記述	標準	漢字書き取り。従来通り 5 問に戻る。
		問二	抜き出し	標準	25 字以内で、森有正の引用文からの抜き出し。
		問三	抜き出し	標準	6 字で、森有正の引用文からの抜き出し。
		問四	抜き出し	易	3 字で、クリステヴァの引用文からの抜き出し。
		問五	論述	やや難	「他者論」が「ユートピア」である理由を説明する。
		問六	論述	標準	「懐疑」について森有正を例にして説明する。
		問七			
		1	論述	標準	50 字以内で、「対話」を説明する。
		2	論述	やや難	傍線部の理由を本文全体を踏まえて答える。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・色々なタイプの評論を読んでおこう。
- ・漢字は必ず出るので日頃から勉強しておくこと。
- ・日頃から文脈を踏まえて文章をまとめる論述練習をしておくこと。
- ・抜き出しの対策も行っておくこと。
- ・100字程度の論述の練習をしておくこと。

国語(古文) 広島大学 文・教育学部 前期日程 2/3

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

短語句の現代語訳が復活し、長い文節の現代語訳が減少した。  
和歌が出題されていなかった。

<本文分析>

大問番号	第二問 古文
出典 (作者)	『新斎夜語』(梅臈館主人)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 1561字(2022年 975字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	古文	問一	記述	易	文法(五箇所)
		問二	記述	標準	現代語訳(四箇所)
		問三	記述	易	文学史
		問四	1.記述	標準	現代語訳
			2.記述	標準	内容説明
		問五	記述	やや易	抜き出し
		問六	1.記述	標準	内容説明
2.記述	やや難		内容説明		
問七	記述	難	内容説明(100字)		

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的な文法力・単語力を身につけ、正確な読解力を養い、記述問題に対応できる力をつけておこう。さまざまなジャンルの作品に対応できるようにしよう。  
文学史の対策も必要である。

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

2017年、2021年に続く日本漢文からの出題。学ぶ者はわずかな時間も大切にすべきことを述べた文章。本文は短くなり、趣旨も明解。設問数が減り、全体として易化。単語の読みがないのは2013年以来。(明治45年3月29日官報第8630号に従えば、本文三行目「由」の返り点「レ」は本来「三」にすべきであろう。)

<本文分析>

大問番号	第三問 漢文
出典 (作者)	『鉄鞭』「惜陰講学」(明治・岡本韋庵)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 <span style="border: 1px solid black;">減少</span> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 223字(2022年 308字)
難易 前年比較	難易 (易化・ <span style="border: 1px solid black;">やや易化</span> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	漢文	問一(一)	記述	易	書き下し文に即して返り点をつける。 「此法」、「其材徳」が何を指すか本文中から抜き出す。 「皆至言也」と筆者が言う理由を説明する。 「其不記時間者」の現代語訳。 「乎」の用法。 書き下し文と現代語訳。句形の知識が問われる。「不其然乎」は答えにくい。 学ぶ者はいかにあるべきか、筆者の考えを説明する。 40字。
			記述	標準	
		問二	記述	標準	
			客観	標準	
		問三	客観	易	
		問四	客観	易	
問五	記述	標準			
		問六	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・重要単語や基本句形をマスターすること。
- ・漢詩を含めて、さまざまなジャンルの漢文に慣れ親しんでおくこと。
- ・内容説明、理由説明、心情説明など記述対策を十分に積むこと。
- ・書き下し文にしたり、訓点を付けたりする演習を積むこと。